城南組 株式会社

JYONAN通信

第114号
令和5年9月号

TEL:075-841-1403 FAX:075-812-0457

この『JYONAN通信』は皆さまと弊社とのご縁を大切にしていきたい
今後もなんらかお付合いが続けていただけたらと思い作らせていただきました
お時間があるときにでもお読みいただければ光栄です
かゆいところに手が届く建築屋でありたい…(株)城南組の代表取締役　寄本　猛です

建築そもそもあるある

-失敗しない家づくり-

玄関ホールは小さく閉じる

LDK、階段と仕切る設計でコストを上げずに熱損失を減らせる

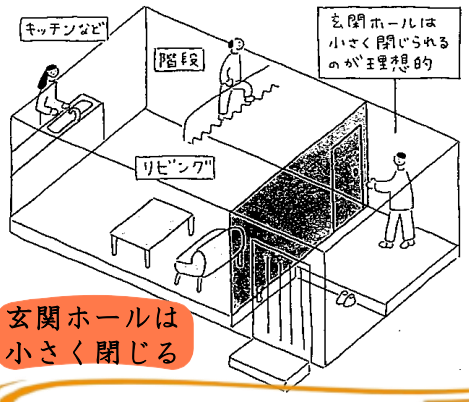
◆隙間が少ないほうが冬は暖かい◆

以前はあまりこの事が重視されず、意匠や水回の住設機器の満足が優先されていましたが、快適な住宅をめざし、健康、省エネ、エコ、CO2削減などの観点から、断熱性にすぐれた建物の気密を追求した住宅が重視されてきました。

その指標は建物の隙間の量の「C値」で表され、この数値が小さいほど隙間が少ないということになります。

現在、高気密住宅と言われる住宅では、この値が1㎠／㎡以下になっています。 これは建物の床面積1㎡あたり隙間が1㎠以下ということです。

10数年以上前の一般住宅ではこの数値が3㎠と言われています。



冷暖房機を運転されるとき、窓は締めますが玄関戸は人の出入りがありますのでや無負えません。

冷暖房効率でいうと、玄関に吹き抜けがあったり、2階以上への階段があれば、暖気が室内階上まで突風のように入ったり、冷房された冷気が玄関から逃げていくことになります。よって熱損失の観点からいうと玄関ホールは出来るだけ最小限の広さとし、吹き抜けを作らず、階段は玄関ホールに作らず、リビングなどからの方がいいとなります。

ただし、1階リビングからのオープン階段などは、リビングで冬暖房運転している場合、暖められた空気が2階へ上がり、2階の冷たい冷気が2階から下に降りてきます。そのような現象が起こり、１階リビングの階段近くに、ソファーや食卓がある場合は、足元に冷たい風が流れることになります。この現象を解決するには、家全体を高気密、高断熱、24時間換気（特に熱交換型システム換気）にすれば、極端な話、家中どこでもほぼ同じ温度の空間が得られることになり快適で健康な住まいとなります。
確かに建設コストは上がりますがランニングコストや健康面を考えれば満足いただける住宅になります。

もう暑さ、寒さを我慢する時代ではありません!健康で快適に暮らせる住まいづくりをお考え下さい♪

「ねんねんコロリ」と「ぴんぴんコロリ」という言葉があります。

人はいずれ亡くなりますが、病弱で最後寝たきりで終わるのか？元気であり続けコロッと亡くなる方がいいのか、住まいの良し悪しの影響があるのです。一般的に人は老後睡眠時間も含め、自宅にいる時間が一番多いです。それだけに自宅で過ごす室内の空気、温度、湿度の管理や適度な運動がいかに大事か。具合が悪くなったら医者通いで大量の薬を飲むことで解決しようと思っていませんか？

家族みんなが健康で快適に暮らせる住まいづくりをお考え下さい。

（何にお金がかかっていますか、かけていますか？優先することは何でしょうか！）

通信112号の続きで父の話になりますが
私は父から仕事の話をまず聞いたことがなく、ただまじめな公務員という印象でした。
貧しいとは言わないが田舎の兼業農家の長男（姉1人）として生まれた父は、高校卒業後、県庁に勤め農・畜産業を担当。二十歳で父親（私の祖父）を亡くし母親（祖母）を養う世帯主となる。

祖父は馬が好きで、皇宮騎馬隊で護衛官として働いていましたが、帰郷後、本家から田んぼを分けてもらい、しっかり者の祖母と結婚。農業で生計を立てながら、家で馬を飼っていた気楽な人だったようです。
私が子供の頃はまだ馬小屋が残っており、物干しの竿受けは蹄鉄（爪に付けるUの字金物）でした。
父は結婚後、長女、長男（私）の子供2人と祖母の5人家族で、田舎ではごく一般的な家庭だったと思います。
私が2才、姉が6才の頃に妻（私の生みの母）を病気で亡くし、またその頃から祖母がリュウマチで寝たきりとなり、その頃の記憶はありませんが、大変な状況だったと思います。

そんな家庭環境の中、嫁いで来てくれたのが今の母（私の育ての母親）です。
26才、初婚だった母。二人のこぶつきに寝たきりの婆さんがいて、お金もない家によく来てくれたものですが、父にとってはほんと救いの神だったと思います。
この母、縁談の話を受けて夫となる父に会う前に、寝たきりの祖母を見舞いに来てからこの話を受けた、自分にも他人にも厳しい女性です。私にとってはこの世で一番怖かった人で、今だにこの母を超える怖いと思う人は現れていません。（また母との事は書かせていただきます）
その後、弟が二人生まれ、家で寝たきりの祖母も含めた７人家族で質素倹約生活。
大黒柱の父は趣味の写真を辞め、車やバイクも持たず、お酒も煙草も賭け事もしない。
真面目に仕事していたのか周りの人に聞くところによると高卒で異例の昇進をしたようです。
職場の立場上なのか？わが家にはクレームや無理な嘆願、ある時期には縁故採用のお願いに、年に何度か決まって日曜日の夕方に来られる地域住民がおられ、父の困っている姿を見てきた私の進路には、公務員の選択はありませんでした。
また、父が「必死やな」と思ったのが、当時の時の人、八日市市長から滋賀県知事、そして国政（衆議院議員）新党さきがけ代表となられた武村正義氏の選挙戦の時に、後援会の事や演説会場を抑えたりと動いていた父を見て、必死に頑張ってるなぁと子供ながら思いました。実家の隣の料理屋での講演会後、我が家に武村氏が来られ母に挨拶をされたことを記憶しています。
日々の仕事に加え、田んぼや畑仕事に祖母の世話、寝たきりの祖母がいたので平日母は2時間以上家をあけることは無く、我が家では家族みんなで食事や旅行に行ったことはありませんでした。そんな真面目だけの父に見えましたが、母は「面白い人や」「男は面白いところもないとあかん」とも言っていました。
毎週日曜日に家族みんなのパジャマを集め洗濯機を回す（干すのは母）父は面白い人だったのか？

県職退職後、縁あって第二の職場も努め、その頃父のいとこが町議会議員を高齢で辞職されるに伴う後継者にと父に頼みに来られましたが母の猛反対で受けませんでした。
あまり前に出ることを好まない母と違い、その後も地域の役（町内会長、区長、神社総代、老人クラブ会長など）を受け、また駅前の「観光案内所」でボランティアガイドとして長年務めておりました。
いろんな役を務めて来た父ですが、助けてくれる周りの人たちが納得し手伝ってくれるよう、いつも気づかいと笑いも入れ話をしていました。
お盆、正月は毎年欠かさず家族一同実家に帰省するのですが、夕食が終わると「ゆっくりしていけ」では無く「こっちの生活リズムがあるからもう帰れ」と言う父。
同居の弟曰く、帰省する我々家族の女性（妻・母）は家に帰ったらすることがいろいろあるから、明日からの勤めや学校に疲れが残らず早く帰って寝られるようにと父なりの気遣いらしい。

また、私の生みの母がどんな人だったのか、父からも姉とも話さず今の母との事が大事と思い、自分の中で知らないでいた方がいいと言い聞かせ今まで過ごしてきましたが聞いておけばよかったかなと今になって思っています。

最後まで読んでいただきありがとうございます。不定期ではありますがこの『JYONAN通信』で
弊社の取り組み・出来事・イベントなどのお知らせの発行が出来ればと思っております。
※この通信紙及びチラシの送付でご迷惑をおかけしていましたら恐れ入りますがご連絡いただければ 送付を取りやめさせていただきます。

～安心・安全・健康で快適な住まいつくりのお手伝い～

おかげさまで創業109周年

〒604-8803　京都市中京区蛸薬師通大宮西入上ル因幡町97

株式会社　城　南　組

TEL：075-841-1403　FAX：075-812-0457

ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ：http://www.jonangumi.co.jp　ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ：info@jonangumi.co.jp

建設業許可　京都府知事（特-2）第1490号